

## 開発の経緯

メトアナ配合錠LD・HDは、アナグリプチン（ジペプチジルペプチダーゼ-4阻害薬、以下DPP-4阻害薬）100mgとメトホルミン塩酸塩（ビッグアナイド薬、以下BG薬）250mg又は500mgを組み合わせた配合錠です。

アナグリプチンは、株式会社三和化学研究所で創製され、2012年9月に製造販売承認を受けたインスリン分泌促進系に分類されるDPP-4阻害薬です。メトホルミン塩酸塩はインスリン抵抗性改善系に分類されるBG薬です。2型糖尿病治療における両剤の併用療方は、各単剤療法で十分な血糖コントロールが得られない場合に検討される選択肢の一つとなっています。

一方で錠剤数の増加は、服薬アドヒアランス低下の懸念があります。配合錠は、各単剤による併用療法と比べ、服薬する製剤の種類及び錠数が減少するため、患者のアドヒアランスの向上が期待できると考えられます<sup>1)</sup>。

以上の背景から、1回の服薬錠数を1錠に減少可能なメトアナ配合錠は、服薬の利便性を高めてアドヒアランスを向上することで、良好な血糖コントロールに寄与すると考えられます。

アナグリプチン又はメトホルミン塩酸塩単独療法で効果不十分な2型糖尿病患者に対して、それぞれメトホルミン塩酸塩又はアナグリプチンを追加投与した結果、いずれにおいても両剤併用の有効性及び安全性が示されたことから、株式会社三和化学研究所は2017年11月にメトアナ配合錠LD・HDの承認申請を行い、2018年9月21日に「2型糖尿病<sup>注)</sup>」という効能・効果で製造販売承認を受けました。

注)ただし、アナグリプチン及びメトホルミン塩酸塩の併用による治療が適切と判断される場合に限る